

カエルツボカビ症侵入緊急事態宣言

共同署名団体

爬虫類と両生類の臨床と病理のための研究会、日本野生動物医学会
日本生態学会・外来種専門委員会、日本爬虫両棲類学会、野生動物救護獣医師協会
日本動物園水族館協会、野生生物保全繁殖専門家グループ日本委員会(CBSG Japan)
世界自然保護基金ジャパン、日本自然保護協会、日本野鳥の会、生物多様性 JAPAN
日本鳥類保護連盟、山階鳥類研究所、日本両生類研究会、オオサンショウウオの会
NPO 法人どうぶつたちの病院

世界の両生類（カエル、サンショウウオ、イモリなど）5,743 種のうち、120 種が 1980 年以降に絶滅したと推測され、さらに 1,856 種（32%）は絶滅のおそれがあるとされています。このような急激な絶滅を加速させている原因の一つとして、1998 年に発見された「ツボカビ症(chytridiomycosis)」があげられています。現在、ツボカビは IUCN（国際自然保護連合）による外来生物ワースト100にもリストされ、世界的な監視が必要とされている感染症です。

ツボカビ症は、真菌の一種である *Batrachochytrium dendrobatidis* によって引き起こされ、致死率が高く（90%以上）伝播力が強いために世界中で猛威をふるい、すでにオーストラリアや中米の両生類が壊滅的な打撃を受けています。また、野外における防除方法は、確立されていません。野外のカエルに流行した場合、根絶は不可能です。このため、オーストラリアでは輸出入検疫を強化するなど、国をあげて対策に取り組んでいるところです。

この感染症が原因でカエルの個体数が減少したり、絶滅に至る可能性があります。多くのカエル類が減少すると捕食していた昆虫などの増加、カエル類を主な餌としていた上位の捕食者（鳥類やヘビなど）への影響からわが国固有の生態系全体が破壊されてしまう恐れがあります。

ツボカビ症が確認されていないのは、これまでアジア地域のみとされてきました。残念ながら、国内の飼育中のカエルから2006年12月25日にツボカビが検出され、初めてわが国への侵入が確認されてしまいました。

私たち共同署名団体は、この事実を重く受け止め、緊急事態を宣言いたします。わが国に生息する両生類と生物多様性を保全するため、私たち専門家は速やかに行動計画を策定し、可能な限りの努力を尽くす所存です。同時に、それぞれの主体に対し、責任ある行動と以下の提案の実施を期待します。

国民の皆様へ

地球規模で両生類が絶滅の危機にあることを理解し、むやみに野生の両生類をペットとして飼育することは慎んでください。なお、ツボカビは、両生類以外には、人を含めた哺乳類、鳥類、爬虫類および魚類には感染したという報告はありませんので安心してください。

すでに飼育している場合、飼育中の個体に異変があれば、すみやかに動物病院や専門の研究機関へ連絡をしてください。ツボカビは、水中を浮遊するため、水の管理が最も重要です。死亡したカエルを飼育していた水槽や水は感染源となります。これらの汚水などを排水口や野外に排水することは、禁物です。当然のことですが、飼育している個体を野外に放つことや死亡した個体を野外に投棄することは絶対にやめてください。飼育中の個体に異変があった場合には、野外の両生類との接触を避けてください。

動物輸入および販売業者の皆様へ

取り扱っている個体に異変が見られた場合は、すみやかに動物病院や専門の研究機関へ連絡をしてください。もし、輸入先の国がツボカビ症の汚染地域である場合には、輸入個体が病原体に汚染していないことを確認してください。また、販売を目的とする採集は、控えてください。

大学、研究機関、動物園、水族館の皆様へ

両生類を取り扱っている施設では、検疫体制を強化し、必要に応じて予防措置を講じてください。感染が疑われる場合には、すみやかに専門の研究機関に連絡してください。また、ツボカビ症についての正確な情報の周知に努めてください。

マスコミの皆様へ

地球規模で両生類が絶滅の危機に瀕していること、ツボカビ症による深刻な影響が世界各地で広がり国際的な共同行動が必要であること、すでにわが国にツボカビ症が侵入し、放置すれば取り返しがつかなくなるおそれがあることなど、メディアを通じて正しい知識を広く国民へ伝えてください。

関係省庁の皆様へ

ツボカビ症の侵入により、わが国の生物多様性に取り返しのつかない影響をおよぼすおそれがあることから、実態調査、検疫の強化、販売・流通の監視、検査体制の確立等、すみやかな対策の実施や法制度の見直しを行ってください。

自然観察や野外調査を行なっている皆様へ

同時に多数の両生類が死んでいた場合は、すみやかに動物病院や専門の研究機関へ連絡をしてください。不必要な生体の採集・持ち帰りは控えてください。また、ツボカビ症が流行している国でトレッキングに使った靴は、靴底に付いた土を良く洗ってから使って下さい。

関連情報参照ホームページ

本件に関する詳細な情報(ツボカビ対策解説書、Q & A等)は、次のホームページに掲載されております。

日本獣医病理学会 / 日本獣医病理学専門家協会

<http://www.vm.a.u-tokyo.ac.jp/byouri/JSVPJCVP/index.html>

(社)日本獣医学会

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsvs/index.html>

麻布大学

<http://www.azabu-u.ac.jp/>

WWFジャパン

<http://www.wwf.or.jp/chyt2007/>

(本件に関する連絡先)

日本野生動物医学会

e-mail: zoo_and_wildlife@yahoo.co.jp

爬虫類と両生類の臨床と病理のための研究会

e-mail: v-path@azabu-u.ac.jp

以上